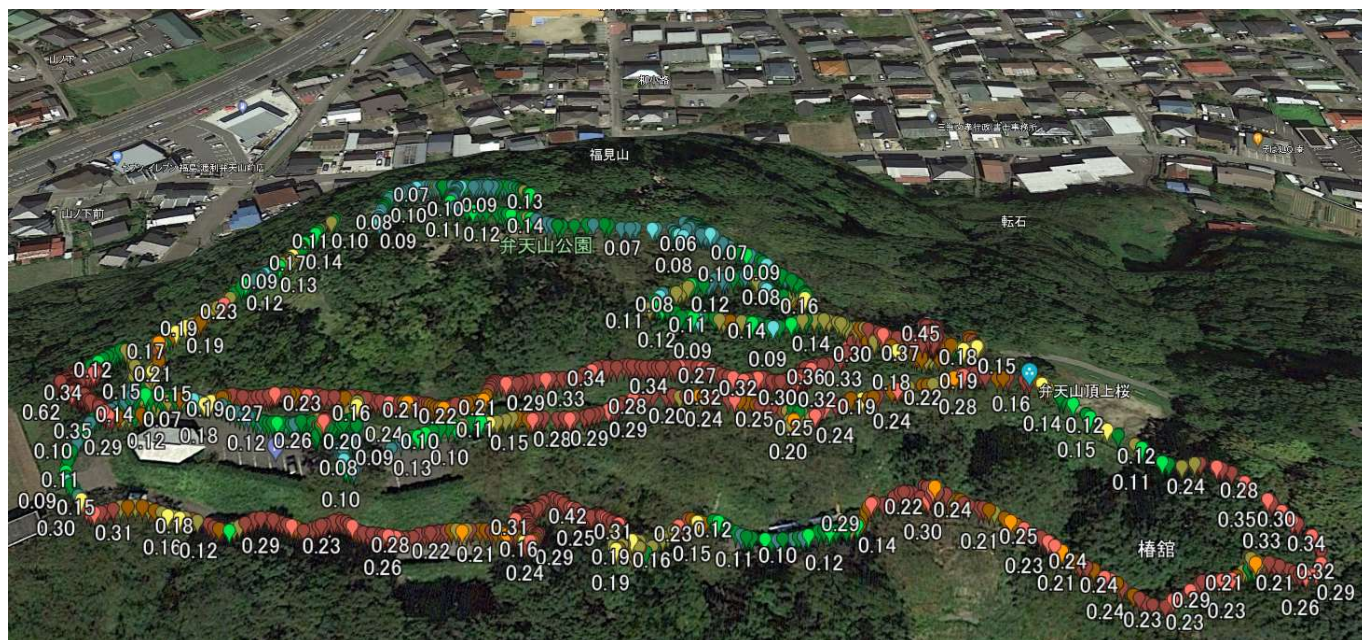


# C-labo NEWS

2022. 6  
Vol. 15



HSF による空間線量率 ( 1 m 高、要所 5 cm 高)

福島市渡利 弁天山公園 0.05-0.42 μSv/時 (5 cm 最高値 0.72 μSv/時) 2022 年 4 月 2 日

## Contents

page

あってはならない原子力災害！	大沼 章子	2
だまっちゃおれん訴訟弁護団避難元調査随同行記	大沼 淳一	3
福島県南会津町産乾燥コウタケから (生換算で) 250 ベクレル/kg 検出	大沼 章子	6
受容できるリスクと出来ないリスク	大沼 淳一	9
C-ラボにゲルマが入りました！	大沼 章子	10
C-ラボの訪問と市民放射能測定に関する研究	キム・イナ	12
C-ラボが名古屋環境大学講座に参加 「放射線・放射能のことを知り、測ってみる」	山岡 美子	13
スタッフエッセイ C-ラボの 11 年を振り返る	松本 真一	14
安定ヨウ素はいつ、どこで、誰から配布されるのか？		16
C-ラボカフェのご案内		16

# あってはならない原子力災害！

東京電力福島第一原子力発電所事故後も原発は再稼働（6 サイト 10 基、現在 6 基停止中）  
原子力災害の可能性を否定出来ない現状に向けて安定ヨウ素剤のことを考えておきましょう！

大沼章子

国連科学委員会（UNSCEAR）は、2020 年/2021 年国連総会報告で、日本人は伝統的に安定ヨウ素が豊富な食習慣があるため、日本人の線量係数は、原子放射線の影響に関する国連科学委員会（UNSCEAR）2013 年報告書や国際放射線防護委員会（ICRP）で用いられる係数の約 2 分の 1 に低下」としています。

本当に、それで良いのでしょうか。最近の日本人の食生活は多様で、食品からのヨウ素の摂取量・吸収量も個人差が大きいことが推測され、線量係数を下方修正することは理解できません。大阪大学の本行忠志さんによれば、日頃、海藻などヨウ素含有量の多い食品を食べていれば、それだけで放射性ヨウ素の甲状腺取込み抑制効果があると考えてはいけません！マウスに日本人の 1 日平均摂取量相当のヨウ素含有物質を投与しても、放射性ヨウ素の甲状腺取込みは抑制されなかった。安定ヨウ素剤を飲むタイミングが大切で、まさに放射性ヨウ素のプルームがやってくる・やってきた時に服用するのがベストだ。そのためには、原子炉災害時用に公的に準備される安定ヨウ素剤でなくとも、日頃から代替品（昆布や市販のヨウ化カリウム・うがい薬・昆布茶など）を考えておくのが賢明で、特に昆布は口に入れやすく有効だ。安定ヨウ素の取込み量が多いほど、放射性ヨウ素の甲状腺への取込みが抑制される。

福島原発事故の時、安定ヨウ素剤を服用したのは田村郡三春町住民の 64% だけでした。県民健康調査の甲状腺検査結果によれば、現在悪性ないし悪性疑いの判定数 274 人うち 手術実施が 227 人です。集計外の患者も合せると少なくとも 300 人を超える子供たちの甲状腺がんの発症は、原発事故後の現象です。その原因が政府・東電・公的研究機関が明らかにできなかった初期被ばく [計測出来なかった短半減期のヨウ素-131 (8 日)、テルル-132 (3.2 日)、ヨウ素-132 (2.3 時間)] に

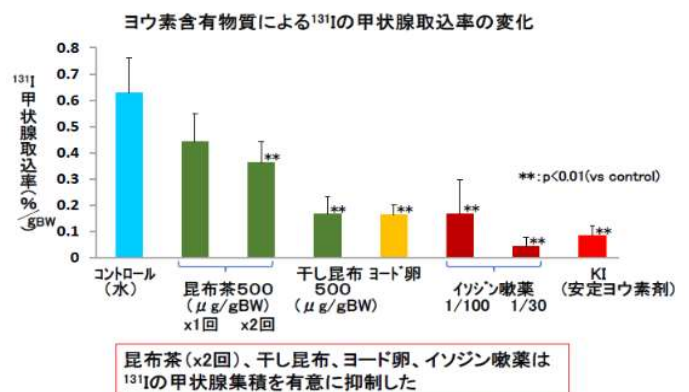
よることは明らかです。にもかかわらず、同検討委員会は、放射線量との相関がない、チェルノブイリと発症年齢が異なるなどの理由で、過剰診断説を主張し、事故との直接的な関連性を否定しています。実際本格検査 2 回目の単純な検査結果からは明らかに避難区域等 13 市町村 > 中通り > 浜通り > 会津という地域差がありましたが、UNSCEAR の推計甲状腺吸収線量を用いて、そうした地域性を見え難くしました。事故から 12 年目の現在も、事故前に年間 1 mSv とした公衆の被ばく限度を緊急事態宣言発令のまま 20 mSv までは許容するとした帰還政策はまさに棄民政策そのものです。事故後数年間は原発ゼロでやれたのにもかかわらず、今、気候変動抑制のために原発推進政策がとられるのは、あまりにも無策で無責任です。原子力規制委員会は、新規規制基準に適合する原子力施設では、福島と同様の規模の重大事故が

発生する可能性は極めて低く抑えられていると言っています。私たちは断じて再び安全神話に乗ってはなりません。また、ロシアのウクライナ侵攻によってエネルギー市場が不安定になっ

たとして、原子力への回帰・期待が高まることもあってはなりません。今こそ、他国に追随するのではなく、独自の平和戦略で、いかなる場合も国民を被ばくの危険から守る政策・外交努力が必要だと思います。

ヨウ素剤はいつ飲むのが効果的？	
放射性ヨウ素が取り込まれる	
24時間前から同時	93% 阻止
2時間後では	80% 阻止
8時間以降	40% 阻止
24時間後	7% 阻止

ヨウ素含有物によるI-131甲状腺取込みの抑制効果



(Hongyo et al. EANM2017)

# だまっちゃんおれん訴訟弁護団避難元調査随記

## 大沼淳一

原発事故避難者訴訟愛知・岐阜は 1 審不当判決の後、名古屋高裁に舞台を移して控訴審が闘われています。控訴にあたって 7 家族 23 名の原告は、初期被曝の重要性和今でも続く避難元の放射能汚染に焦点を当てて避難の正当性を訴えるべく、新しい弁護団を選任し「だまっちゃんおれん訴訟」として闘っています。裁判所は、1 審と同じ弁護団で闘う原告を A 原告団、だまっちゃんおれん原告を B 原告団として、同じ法廷で審理が進められつつあります。B 弁護団は少人数ですが、団長さんを除けば 40 歳前後の若手弁護士で、とても良く頑張って未知の領域に挑戦しています（全国の数ある裁判のなかで被曝の問題を正面から訴えているものは稀です）。

C ラボは市民放射能測定センターです。放射能汚染を測定できることが最大の武器です。1 審の頃から、裁判の傍聴などの支援に加えて、原告の方から依頼された避難元の土壌の放射能測定などを行ってきました。だまっちゃんおれん訴訟原告団が結成されてからは、より組織的な取り組みとして、2019 年 11 月に 7 家族全員の避難元汚染調査を実施しました。150 万余円で購入したホットスポットファインダー（HSF）が大活躍して、避難元やアクセス道路の汚染地図を作成するとともに、現場で採取した土壌の放射能濃度も測定し、除染されたとされている 7 家族の避難元の全てが今なお放射線管理区域の基準 4 万 Bq/平米を超えていること、中には隔離保管しなければならない指定廃棄物基準 8000Bq/kg を超えているところもあることを明らかにしました。

これらの調査結果について、弁護団に対して説明会を 2 回行い、裁判所へも 4 通の書証にまとめて提出しました。市民測定所の測定精度の高さを示すために、これまで行ってきた基準玄米を用いた精度管理方法や、みんなのデータサイトの 17 都県土壌放射能測定調査の原点となった C ラボによる岩手全県土壌放射能汚染調査で開発した調査方法などの解説も行っています。原告避難元土壌調査結果については、2011 年 6 月に行われた文科省による土壌調査結果との対比も行って、矛盾がないこ

とを示すことが出来ました。C ラボ調査地点に近い複数の文科省調査地点の放射能濃度は、C ラボのデータに±30%のエラーバーを付けると、その範囲に収まったのです。

だまっちゃんおれん訴訟の喫緊の課題のひとつとして、裁判官の現地調査の実現があります。放射能汚染した避難元を裁判官が実際に見てみようと思うかどうかは裁判の行方を左右する重大なポイントです。これを現実のものとするためには、まずは弁護団が現地調査をする必要があります。というわけで、4 月 1 日～3 日の 3 日間、弁護団事務局長の田巻弁護士と、弁護団長である宮田弁護士による現地調査が行われました。弁護団会議でこの調査の支援随行を約束した大沼&大沼と、原告団から団長の O さん、I さんご夫妻、S さんが同行しました。

4 月 1 日、大沼&大沼は朝 8 時に自宅を出発しました。車には、ホットスポットファインダー(HSF)とシンチレーション・サーベイメーターを積み込みました。調査が終わったら雪山登山をしようと、スキーや登山装備、寝袋、炊事道具も積み込みました。旅費の元を取るために山スキーを抱き合わせにするのが大沼流です。



ホットスポットファインダー

最初の目的地は宇都宮大学です。この大学の国際学部教員（社会学者）である清水奈名子さんと田巻弁護士の出会いを作るための企画です。圏央道で事故渋滞があるというラジオ放送を聞いて、首都高速での都心部通過を

選んだので渋滞の中でひやひやしましたが、なんとか約束の午後3時に着くことが出来ました。新幹線で来た田巻さんと宮田さんと合流して、清水さんとの懇談開始。国際学部には福島県から栃木県に避難してきた人々に寄り添って、避難者の生活苦や人権侵害の状況を聞き取り、多くの論文や著書を著わし、シンポジウム開催などを続けてきた研究者グループがあり、清水さんはその中心で活躍している一人です。この日は、名古屋高裁での証言を視野に入れた意見交換でした。

宇都宮大学での話し合いが盛り上がり、予定をオーバーしたために、この日の宿泊をお願いしていた大田原市の中下裕子弁護士宅に着いたのは、とっぷりと日が暮れてしまった午後7時でした。国道4号線を矢板で降りてから複雑な地方道（県道）を東に進むのですが、わが車にはナビが付いていないので、ロードマップと事前に調べておいた鉛筆書きのルート図だけが頼りで、日が暮れてしまうと苦労するのです。幸い田巻さんのスマホの力も借りて、なんとか無事に到着することが出来ました。

大急ぎで近くの天然温泉に出かけて、風呂に入り、付属の食堂で夕ご飯を食べました。機関銃のようによくしゃべる中下さんと、才気煥発の田巻さんとの出会いは予想通りに大盛り上がりで、話に夢中になった田巻さんが湯あたりして倒れるというハプニングもありましたが、中下さん宅に戻っても充実した議論が午前1時ごろまで続きました。例えば、低線量被ばくによる健康被害リスクを裁判官に認めさせるには有力な法律学者に論文を書いてもらうことが必要だとのアドバイスがありました。

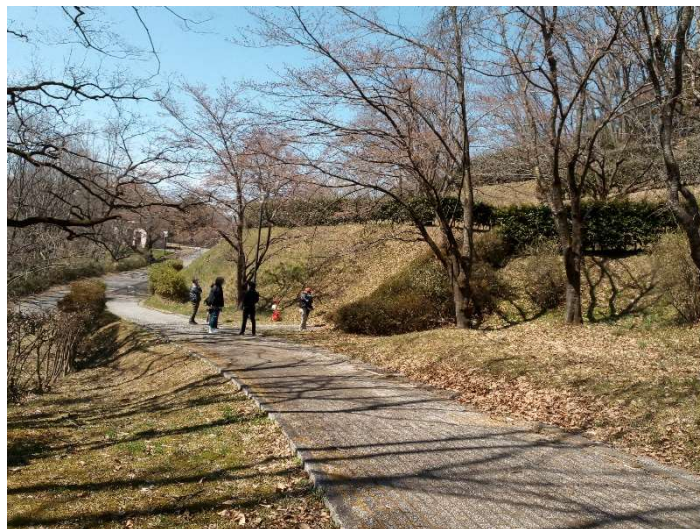
そもそも中下さんは、環境汚染や労災問題、オース条約批准を求める運動など八面六臂の大活躍をしている弁護士さんで、ウィークデーは東京で活動し、週末は大田原市で農業に精を出している方です。長年、高木仁三郎市民科学基金の理事をされていて、大沼は助成金選考委員だった頃以来のお付き合いです。田巻さんと中下さんとの出会いは、きっと何かのきっかけになってくれるのではないかという大沼の勝手な思い込みで、宿泊をお願いしたのでした。

4月2日、7時起床。素晴らしい朝食をいただいて、8時出発。ロードマップと手書きルート図を頼りに東北道を経由して福島駅前へ。約束の10時に何とか間に合せて、4人の原告の皆さん（中京TVのKディレクターも同行）と合流し、まずはSさんの避難元である福島市渡利地区へ。福島市内で最も線量の高かった地域です。この地域の背後にそびえる弁天山公園は市民の憩いの場となっていて、この日も親子連れがのんびりと遊んでいました。除染はされているはずですが、高いところは0.42 $\mu$ Sv/h(地上1m)もあり、地上5cmまで近づけると0.72 $\mu$ Sv/hもありました。シンチレーションサーベイメーターのガンマ線検出音が鳴るようにセットしたので、ホットスポットに差し掛かると、「ピッピッピッ」が「ピー」という連続音に変わるのでわかりやすく、弁護団や原告の皆さんに高線量を実感してもらうことが出来ました（電池の消耗が早いのが玉に瑕です）。本号の表紙はH S Fで描いた弁天山の汚染マップです。

次いでOさんの避難元である伊達市に入り、住宅の周



中下邸にて



桜の開花が近い弁天山公園ではのんびりと子連れのファミリーが遊んでいた。（空間線量率は本文参照）

辺や中学校、小学校の帰路に子どもたちが良く遊んだ淡島神社の測定をしました。淡島神社での最高値は $0.34\mu\text{Sv/h}$ (1m)、 $0.43\mu\text{Sv/h}$ (5cm)でした。住宅周辺の土壌は、Cs-137が $3730\text{Bq/kg}$ 、Cs-134が $115\text{Bq/kg}$ でした。高濃度汚染した霊山町の小国地区集会所で市民放射能測定所を見せてもらおうとしましたが閉まっています、すでに今月中の閉鎖が決まっていることがわかりました。その後、伊達市役所の放射能測定センターを見せてもらって本日の行程は終了。福島駅前のホテルに向かいました。

4月3日、飯館村を経て南相馬市に入り、原町区のIさんの知人宅を訪問して弁護団が聞き取り調査を行い、残りのメンバーで雲雀が原祭場の調査をしました。有名な伝統行事・相馬野馬追が行われる場所です。小高い丘のすそ野に馬場があり、丘の斜面に観覧席が設けられています。観覧席最上段に四阿(あづまや)があって、その周辺がホットだったので土壌を採取しました。帰名して測ると、Cs-137が $16900\text{Bq/kg}$ 、Cs-134が $474\text{Bq/kg}$ もありました。指定廃棄物基準の2倍以上です。



相馬野馬追が行われる雲雀が原祭場。観客席最上段の四阿(あづまや)の横の丸印が土壌採取場所

昼食後は、Iさんの旧宅や新居を立てる予定だった場所、さらには従妹さんのお宅の測定をしました。旧宅の土壌は、Cs-137が $3890\text{Bq/kg}$ 、Cs-134が $90.3\text{Bq/kg}$ でした。従妹さんのお宅は2年前の調査でも線量率が高くて驚かされたのですが、今回も状況は変わっていませんでした。玄関前の花壇や屋敷裏のイグネ林では $0.8\mu\text{Sv/h}$ (1m)を示し、5cmまで近づけると $1\mu\text{Sv/h}$ を超えて、サーベイメーターは警報音を発しました。2年前の調査でお話を交わした従妹さんはすでにガンで亡くなっておられま

した。

どんどん時間が経っていきます。今日中に帰名する原告団と弁護団の残り時間が少なくなってきて、丁寧に見るつもりだった福島第一原発周辺は常磐道から眺めるだけでいわき市に直行し、スーパーひたち号に間に合わせることになりました。Iさんの車と中京TVの車が南に向かうのを見送って、大沼&大沼は一路北を目指しました。直前の地震でぼこぼこになった常磐道を経て仙台南道路、東北道、山形道と乗り継いで、山形県寒河江市の道の駅に着いた時は真っ暗になっていました。数年前に葉山(月山の東にそびえる独立峰)の山スキーをした折に泊めてもらった道の駅です。道の駅は清潔な便所と水道が使えるので、車中泊にはもってこいの場所です。

今回も葉山へのスキー登山をするために来たのですが、夜半から降り始めた雨がやみません。葉山を断念して、肘折温泉を目指すことにしました。寒河江から県道伝いに北上すると周囲は雪景色です。田んぼの上の雪がまだ解けていないのです。この雨をもたらしした低気圧が運んできた湿った空気のために霧が湧き、なんとも幻想的な風景なのですが、車を制限速度で走らせるのが難しい状態です。大石田を経て新庄市の手前から国道458号線に入り、肘折へ向かうと積雪はさらに増してきて、雪崩注意の看板や幟旗が林立していました。道路の横の斜面には雪崩が落ちてきた跡がたくさんあります。肘折温泉のアメダスは、八甲田山中の酸ヶ湯温泉アメダスと並んで、豪雪地帯の積雪量ランキングで一二を争っています。

やがて国道458号線が行き止まりとなり、看板には開通が6月以降だと書かれていました。ここから急斜面を降りると肘折温泉です。銅山川と苦水川の合流点付近に



月山登山ルート入口の大森山をバックに、豪雪の山形県肘折温泉

温泉旅館がひしめきあっていて、それを取り囲む山々には残雪がたっぷり残っています。奈良時代に開湯された古い温泉場で、月山の東側からの登山口にもなっています。その登山ルートを少し上がってみて下見をしようと思っていたのですが、雨はなおも降り続いています。予約した安宿に車を置いて、傘を差しながら散歩したただけで終わってしまいました。

翌日、朝食を早めてもらって8時出発。大急ぎで蔵王温泉に向かいました。雨は何とか上がっています。蔵王ロープウェー山麓駅に着いたのが午前10時。早速ゴンドラに乗って山頂駅まで上がり、パトロールの詰め所で用紙をもらって登山届を出して、ロープをくぐって蔵王連峰最高峰である熊野岳目指して登りました。濃いガスの中でしたが、51年ぶりのルートをたどりました。51年前というのは新婚旅行で通ったルートだということです。あの時は宮城県側に建ったばかりの仙台一高・井戸澤小屋に2泊してから県境尾根を越えて山形蔵王に滑り込んだのでした。今回はその逆コースです。

山頂手前でガスが切れて上空に青空が見えました。ただし、我々の周り500mほどのガスが切れただけで、周囲の景色は見えません。頂上の神社を確認し、斎藤茂吉の歌碑「陸奥を双分けざまに聳えたもう 蔵王の峰の雲の中に立つ」の横で昼食を食べているうちに再びガスが立ち込めて、その中を滑って山形蔵王スキー場へと戻りました。スキー客はほとんどなく、貸し切り状態のスキー場を山麓まで滑走。この日はpH2.0の硫酸泉に浸かって感動。夕食の時に肘折温泉に忘れ物をしたことに気が付きました。

最終日は初めての好天でしたが帰名です。米沢から村上に出るのが最短ですが、忘れ物を取りに北上して再び肘折温泉へ。肘折からは最上川に沿って酒田・鶴岡まで走り、鶴岡から日本海の絶景を見ながら新潟、上越、長野を経て名古屋に帰りつきました。途中、いくつかの道の駅で市場調査のための山菜を購入しました。雪解け水を集めて堂々と流れる最上川は、まさに芭蕉が大石田で詠んだとおりの「集めて速し最上川」でした。

## 福島県南会津町産乾燥コウタケから（生換算で）250 ベクレル/kg 検出

不良食品の届け出に対する福島県の対応は、  
福島県衛生研究所での検査可能な量を満たさないと検査不能処理だった！



東京電力福島第一原発事故によって今なお深刻な放射能汚染が山野を中心とした陸地部に残っています。そのため、山野草や野生キノコ、野生獣肉、農産物について、多くの地域で出荷制限が続いています。福島県について野生キノコの出荷制限をみると、南会津町・金山町・檜枝岐村・湯川村の4町村にのみ出荷制限が出ていません（2021年秋も、2022年4月末現在も）。

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/tokuyou/kinoko/qa/seigenfukusima.html> )

さて、2021年10月中旬、福島県白河市の採取・販売業者のホームページからコウタケを購入しました。昨秋はコウタケが不作とのことで、業者が採りためた

ものを乾燥品で25gほど入手しました。これをC-ラボで全量粉碎処理したのち、ヨウ化ナトリウム核種分析装置（NaI）で測定したところ、放射性セシウムが1000 Bq/kg 乾でした。（なお、念の為、C-ラボではさらにこの試料を今号ニュースで紹介しているゲルマニウム半導体核種分析装置（Ge）でも測定しました。Ge専用のU8容器に詰め替えての測定でしたが、930 Bq/kg 乾でNaIによる測定値と10%以内の誤差で一致しました。）食品基準値は生キノコで100 Bq/kgです。乾燥品については、厚生労働省が示す「食品中の放射性物質の試験法の取扱いについて（2012年3月15日付け食安基発0315第7号厚生労働省医薬食品局食品安全部基準審査課長通知）」

[https://www.mhlw.go.jp/web/t\\_doc?dataId=00tb820](https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=00tb820)

5&dataType=1&pageNo=1) によって示された重量変化率で生換算値を算出して判断します。ただ、ここには「乾燥コウタケ」の項がなく、別添2「その他の乾燥きのこ類 4.0」を適用すると、250 Bq/kg で食品基準値を超えていました。

早速、業者に連絡したところ、料金を返却するから品物を返却して欲しいとのことでしたが、一方で、コウタケの乾燥による水分変化は経験的に1/10-1/12と主張しました。そうであるならば、食品基準値との比較においてぎりぎりセーフということになります。丁度その時期、食品基準の緩和反対署名をみんなのデータサイトで厚生労働大臣に提出（11月9日

<https://minnanods.net/blog/news/entry-1650.html>）した時期でもあり、厚生労働省に確認の電話を入れました。「乾燥コウタケ」が「その他の乾燥きのこ類」に入った経緯は明確にできなかったものの、その重量変化率は4.0で処理することを確認しました。なお、業者に事前の放射能検査結果を聞いたところ、福島県農業総合センターのGeで9月14日測定した南会津町針生字駒止山のコウタケが22 Bq/kg だったとのことでした。成績書の宛先が黒塗りにされていることもあって、当該乾燥コウタケとの関連性はこの成績書からは不明でした。

ここまでで、ネット購入した乾燥コウタケが食品基準値を超えていたこと、しかもその採取地が野生キノコの出荷制限が出ていない福島県南会津町で採取されていたものであることを確認しました。どうしたら、無用な被ばくを避けるための対応・対策ができるのでしょうか。地元の名古屋市や国の関連機関および福島県に電話やメールで「食品基準を超えるキノコが流通していることについて、行政的な対応をお願いします」という連絡をしました。

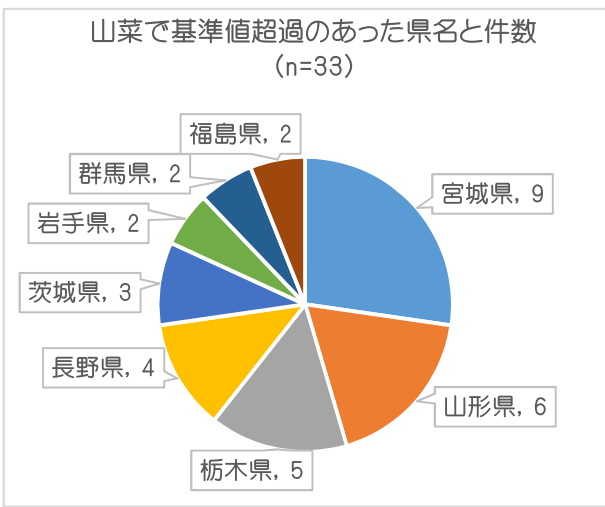
その結果、最終的には、福島県食品生活衛生課とのやりとりになりました。福島県保健福祉部食品生活衛生課は、「名古屋から当県に調査依頼がありましたら、速やかに調査を実施し、名古屋市の保健所を経由

してその結果をお知らせする流れになります」との返信でした。しかしながら、その瞬間にも南会津町ではキノコ採取がなされ、放射能検査もされることなく、地元民も含めた多くのキノコ好きの人々に食されることとなります。素早い対応が必要だと訴えました。業者とのやりとりで明らかになったのは、県庁からの指示があった模様で業者の地元、福島県南会津保健所（白河市）から11月8日に事情聴取を受け、「食品衛生法違反として直ちに問う事はない。今期は収穫も販売も終わっており検討する在庫が無い為、年度内での対応は難しい。乾燥コウタケの計測方法について来期乾燥コウタケの販売前に様々な方法を実験し合理的方法を見出す。」ということになったとのことでした。その後、業者とのやりとりはしていません。例えば出荷制限が出ていなくとも、個別の採取場所によってキノコの放射能汚染度が異なり、時に食品基準値超えのものも存在すること、出荷の都度放射能濃度を測る慎重さが必要なことなどが、しっかり認知されたのではないかと思ったからです。業者も原発事故による被害者です。事

故から10年経過してもまだ山野をフィールドにする生業（なりわい）は大きな影響を受けているのです。

乾燥コウタケの重量変化率4.0を確認した後の12月7日、「不良食品」として名古屋市保健所経由で福島県食品生活衛生課に、Ge測定可能なU8容器詰め乾燥コウタケ23.5gを添えて届けました。年末に名古屋市保健所経由で回答が届き、「福島県衛生研究所での検査可能な量を

満たしていないため検査不能」とのことでした。この回答に驚きました。すでに、行政的に出荷制限をかけるための試料・測定は困難な時期になっていたため、来期当初のモニタリング調査を待つしかないと考えていたので、ここでは福島県の測定によって、南会津町に食品基準を超えるコウタケが出たことを記録に残し、地元住民を始め広く広報されることが必要だと思っていたからです。また、不良食品として届けられたものに、通常の行政による取去検査のための食品GLP（Good Laboratory Practice「試験検査の業務管理」）の試料量の



2021年MDS山菜タケノコ調査プロジェクト結果

規定がそのまま適用されるのは不適切だとも思いました。「不当食品」に該当するの否か、訴えの正当性を確認するための測定は行政の裁量で可能でなければなりません。そもそも GLP 規定では乾燥キノコ 300 g 以上が必要とのことですが、入手した乾燥コウタケはその 1/10 量でした。C-ラボで測れて、福島県で測れないというのは理解不能です。測りたくないという行政マン独特の保身なのかと疑ってしまいます。

最後に、乾燥による重量変化率について報告します。通知には「別添 1 に示す品目に示されていない乾燥きのこ類等は、当面の間、別添 2 に掲げる重量変化率を参考に検査を行い、その結果、基準値を超過した場合、事業者から提出されるデータ等を踏まえた重量変化率により換算した結果を当該食品の分析値とする。」と記載されており、福島県は、「事業者から提出されるデータ等（事業者の「記憶」や「証言」ではなく、科学的根拠のあるデータ）を踏まえた重量変化率により換算した結果を当該食品の分析値とすることになる」と言ってきました。

しかし、今回の事例では、業者は経験で水分変化を 1/10-1/12 と主張し、福島県は 1/15 とも言っていました。これらが科学的根拠のある記録されたデータではないことは明らかですが、福島県が測定を拒否したためにそのことを問題にすることにはなりません。すでに、乾燥コウタケに加工する過程で、生の放射性セシウム測定、生から乾燥までの水分変化、加工後の放射能測定がなされ、記録されていなければならないはずです。そのことが遵守されていれば、食品基準値超えのキノコ加工品が市場に出ることはないはずです。やはり、行政指導の怠慢が露呈したことになります。

以上、食品基準値を超えた乾燥コウタケを入手したことによる経緯を報告しました。福島県には市民が訴えた「不良食品」に食品 GLP を理由に測定不能とすることは行政の怠慢であり、出荷制限のない福島県南会津町からの野生キノコの食品基準値超えの事実の隠蔽だとして抗議し、3 月末に食品 GLP の開示を求めましたが、5 月に入った現在も交渉中です。（大沼章子）



きのこ（野生のもの）

地域	検査状況	備考
須賀川及び中須賀の全市町村	出清制限	
楢葉町	出清制限	
喜多方市	出清制限	特定きのこのむきつけ、まいたけ、くひたけ及びまいたけに限り解除
昭和村	出清制限	
安達町	出清制限	
会津坂下町	出清制限	
北塩原村	出清制限	
下郷町	出清制限	
会津谷松市	出清制限	特定きのこのむきつけ、くひたけに限り解除
只見町	出清制限	特定きのこのむきつけ、まいたけ、くひたけ及びまいたけに限り解除
会津美里町	出清制限	特定きのこのむきつけ及びまいたけに限り解除
会津川口町	出清制限	特定きのこのむきつけ、まいたけ、くひたけ及びまいたけに限り解除
三島町	出清制限	特定きのこのむきつけに限り解除
磐前町	出清制限	特定きのこのむきつけに限り解除
磐前町	採取制限	
磐前町	採取制限	
磐前町	採取制限	

\*出清制限がなされていない須賀川、金山町、南会津町、楢葉村を除く県内全市町村の一部を除き、(福島県の実定産地調査に基づき)一部産地調査により基準値を下回ったマツタケに限る。)

食品基準100 Bq/kgを超えて放射能セシウムが検出されたキノコ

みんなのデータサイト (MDS) では、2021 年秋に実施した、キノコ測定プロジェクトの結果をまとめ、公開しています。

<https://minnanods.net/analyze/food-data/2021autumn.html>



\*最大値1833 Bq/kgを示したコウタケは 測定件数が18件と最も多く、食品基準の100 Bq/kg超えの比率も61%と高く、複数検査が可能であったキノコのうち基準値超えが最も多かった。



低線量被ばくによる健康被害リスクを、胸部レントゲン写真撮影やCT検査などの被曝線量と比較したり、野菜を食べないことのリスクなどと比較した宣伝が政府側専門家や機関から流されている。文科省や復興庁が制作・配布した放射線副読本はその典型である。しかし、リスクの受容については、自発的行動 (Voluntary Activities) によるリスクは、強制される行動 (Involuntary Activities) によるリスクと比べて1000倍のリスクが許容されると、アメリカの社会学者C.スターが報告している。

胸部レントゲン写真撮影やCT検査は病気を発見したり治療したりするために、被曝による健康被害リスクをやむを得ないものとして受け入れる選択である。病気と闘うために進んでリスクを受容する、まさに自発的行動である。(ちなみに筆者は、在職中の健康診断で胃検診を拒否し通した。筆者なりのリスク管理であった。) 野菜を食べないとか、タバコを吸うという行為も、無知や知識不足が手伝っているとはいえ、自己の快楽を求める自発的行動である。一方、望みもなかった福島第一原発事故による被曝は、強制される行動である。全く正反対のリスク受容行動を比較衡量したり、その比較衡量結果を被害者に押し付けるやり方は反倫理的である。

2012年6月27日、全党派、全国議員の賛成のもとに制定された「原発事故子ども・被災者支援法」は避難と帰還について「居住、他の地域への移動及び移動前の地域への帰還についての選択を自らの意思によって行うことができるよう、被災者がそのいずれを選択した場合であっても適切に支援するものでなければならない。(第二条2)」と定めている。また、被災した人々の意思について「避難している者等の意見を反映させる…(第五条第三項)」とし、「当該施策の具体的な内容に被災者の意見を反映し、当該内容を定める過程を被



”だまっちゃおれん”原発事故人権侵害訴訟・愛知岐阜 (通称：だまっちゃおれん訴訟) HP より

災者にとって透明性の高いものとする…(第十四条)」と定めている。これらの条文は被曝による健康被害リスクの受容について、被災者の自由意志の尊重(すなわち自主判断としてのリスク管理の尊重)と、政府施策の透明性を求めていると読むことが出来る。この法律が塩漬け状態となって機能していないことについては政府および官僚機構に全面的な責任がある。

放射線被曝による健康被害は、発症するまでは損害は発生していないというのが従来の政府側の論理である。しかし、長期間を経て発症したところには因果関係の証明が難しくなっていて、被害者の多くは泣き寝入りにされてしまう。これは放射線被曝だけではなく、約6万5千人の認定申請者に対して認定者が3千人未満にとどまっている水俣病患者や被爆者認定されずに苦しみ続けてきた広島・長崎の被爆者でも同様の歴史が刻まれている。

この大量の泣き寝入りを生んでいるのは、因果律不明瞭問題(原因と結果を結ぶ論理の糸が不明瞭になる問題群)を多発させた科学技術の限界性と、無責任な企業や政府の恣意的な被害者切り捨て策である。絶対安全がなくなったリスク管理社会では、リスクを単なる確率ではなく実害として扱って被害補償をする制度が必要なのである。さらに、発症していなくても健康被害リスクを負って生きるだけでも精神的な苦痛があることを損害として認めて賠償することが必要である。そうしなければ、多くの被害者の泣き寝入りが繰り返されてしまう。Cラボが応援している「だまっちゃおれん訴訟」は、これらの限界を突破し、被害者が泣き寝入りしないための闘いでもある。

原発事故は私たちが大切なものをすべて奪って行った  
福島で過ごしたすべてを、  
これから過ごすはずだったすべてを  
10年経っても涙が止まらない  
私たちはもう一度立ち上がる  
これから生きるすべての人の未来のために  
手放したくない私たちの権利のために  
大人としての責任を背負って

## C-ラボにゲルマが入りました！



施設内の現場や野外等の In-Situ 測定用に開発された可搬型ゲルマニウム (Ge) 半導体核種分析装置 (ミリオンテクノロジーズ・キャンベラ社 ISOCS-Shield 付) が、昨年 8 月 C-ラボにやってきました。月一液体窒素を注入して測定法および測定精度の検証などを行ない、いよいよ実試料の測定も可能になっています。

どこからやってきたのかというと、福島県福島市にあった Ge は一旦いわき市へ移動後、常磐道一首都高速一東名を走って約 600 km 移動して、C-ラボにやって来ました。



2011 年の東京電力福島第一原発事故以降、福島ハイテクプラザ内で、一般財団法人材料科学技術振興財団 (MST、科学技術分野の材料の基礎的研究やその振興を図るために 1983 年設立) は、この可搬型と室内設置型の Ge を使用して放射能測定の委託事業を実施していました。しかし、10 年目の 2021 年度は事業の受託が出来なかった模様です。そこで、MST は、福島県内にある市民放射能測定所に無償供与を打診したということです。みんなのデータサイトのふくしま 30 年プロジェクトにも声が掛かったそうですが、最終的にはいわき市のたらちね市民放射能測定室が、可搬型および設置型 Ge の両方を引き取りました。すでに設置型 Ge を 1 台稼働させているたらちねが、Ge は設置型 2 台で十分としたため、可搬型 Ge は手を上げた C-ラ

ボが引き取ることになったのです。たらちねからの搬出にあたっては、たらちねの皆さんや元 C-ラボスタッフの西浦さんに大変お世話になったことを忘れてはなりません。C-ラボに到着した Ge は、常時室内使用とし、玄関に鎮座してもらっています。



可搬型ゲルマは、設置型 Ge と同じレベルの検出器・マルチチャンネルアナライザー・解析ソフトです。異なるのは、可搬型なのでやむを得ませんが、検出器を冷やすために構造的に一体となっている真空液体窒素保存瓶の容量が 7 L と小さいことです。このため、用時液体窒素補充タイプの Ge であることは便利なのですが、7 L フル充填の場合、満杯に補給した後、測定可能状態まで冷却・安定化に 3 時間ほど要し、その後測定可能な時間は室温設定にもよりますが、3 日ほどです。余談ですが、液体窒素は 10 L (6050 円) 購入で 3 日稼働ですので、これまで使用してきた NaI (ヨウ化ナトリウム検出器) に比べて Ge 稼働には、電気代以外に 2000 円/日の稼働経費が掛かります。また、もう一つ、可搬型なるが故に遮蔽体が設置型に比べると貧弱です。検出器部の下方に 5 cm 厚×3 個、その上に 3 cm 厚×3 個となっています。今後何らかの鉛遮蔽体の強化を図っていきたいと思っています。なお、これらの遮蔽体に囲まれた測定室のスペースが小さいため

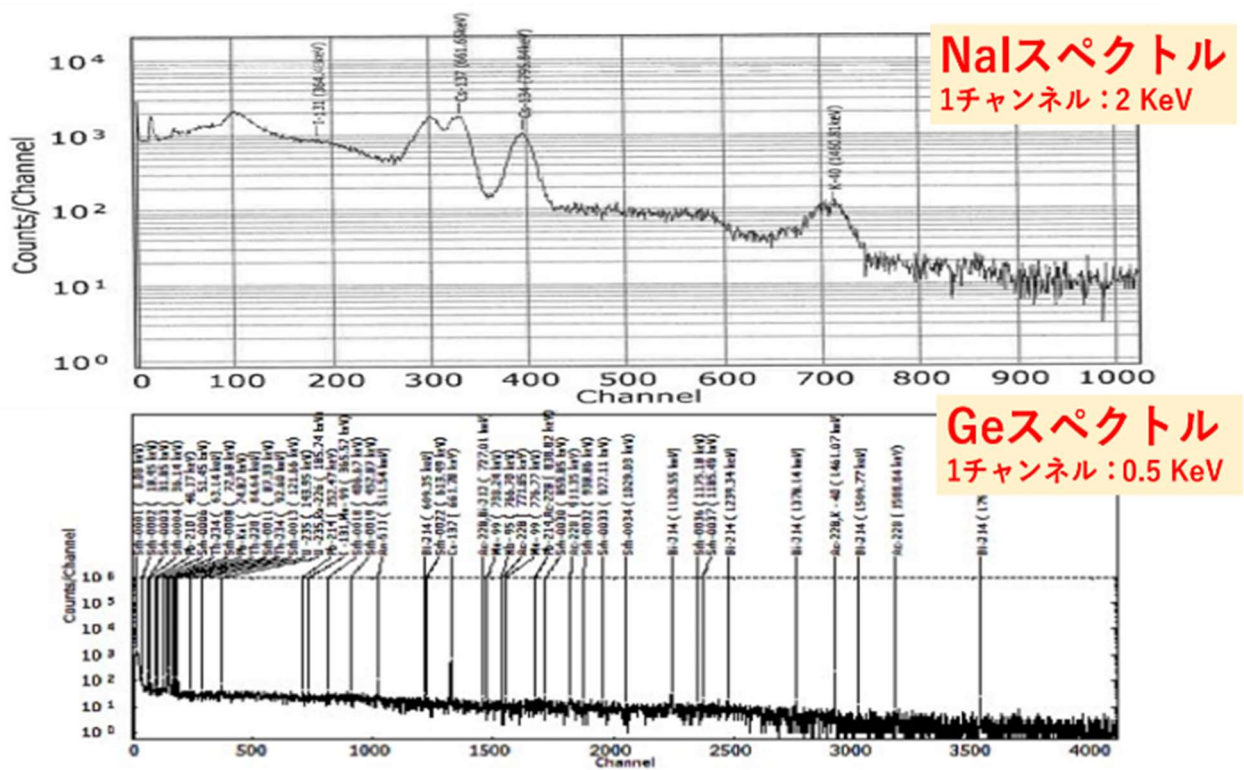
マリネリ型容器が使用できません。しかし、Ge 測定に一般的な U8 容器の測定は可能です。現在、測定室の空間にすっぽり入れられる PET 容器(1L)を用いて、ソフトに組み込まれた数値計算法(標準線源無しでシミュレーションした効率校正を用いる計算法)で正確な測定が出来る様に検証中です。

NaI と Ge のスペクトルを下図に示しました。NaI のピークは幅が広く、測定対象であるセシウム-137 など人工の放射性物質のピークの近くに天然物のピークがある場合はピークの裾野などが重なってしまいます。

このように NaI は分解能が悪いですが、これに対して、Ge は針状のピークを示し、分解能が格段に優れていますので、天然物による妨害ピークとの区別が可能です。すでに半減期が短くて殆ど見えなくなっている Cs-134 や、微量の Cs-137 が検出しやすいという利点があります。しかし、検出器の感度としては NaI の方が Ge よりも優れているため、測定の目的や試料量・経費などによって、使い分けることになると思います。

(大沼章子)

\* ISOCS 画像はミリオンテクノロジーズ・キャンベラ社提供



たらちねの皆さんと



いわき放射能市民測定室たらちね

<https://tarachineiwaki.org/>

キムさんは韓国のソウル生まれ。ソウル大学社会科学部人類学科卒業後、同大学同学科の修士取得。修士論文のタイトルは”生’と’共生’の食卓：東日本大震災の後、日本の生協の食安全における文化的構成と実践”。現在アメリカのカリフォルニア州立大学・アーバイン校の文化人類学博士課程在籍中。英語・韓国語・日本語の通訳・翻訳者として活動中です。今年の1月に研究のためC-ラボを訪問され、今回C-ラボニュース発行にあたり、日本語で寄稿して下さいました

C-ラボの皆さん、こんにちは。

キム・イナと申します。アメリカのカリフォルニア州立大学・アーバイン校の文化人類学科の博士課程に在籍しています。研究のテーマは、東日本大震災後の日本の市民放射能測定活動です。一般の市民が原子力発電所の事故の後、放射能測定データを得る過程を通じて、どのような経験をして、環境に関する考え方がどのように変わってきたのかについて研究をしています。文化人類学は、現場に直接行って、現場の人と直接話して、現場の活動に参加しながら観察するのを基本的な研究方法としています。そのため、今東京に滞在しながら、様々な市民放射能測定室に伺って一緒に測定活動に関わっています。東日本大震災の後、またはチェルノブリの原子力事故の後、市民が環境と食品中の放射能汚染を心配していました。しかし、政府が十分な情報を提供していません。市民が直接測定室を作っていて自分と家族、またはより多くの社会の人の健康を守りたいと行動を始めたという事が私にとって印象深かったです。

C-ラボについてはアメリカにいる時からずっと知っていて、C-ラボに訪問したいと思っていました。しかし、コロナ禍の中、外国人の入国が厳しくなりましたので、ZOOMで大沼夫妻の講演会や報告会に参加す

るしかできませんでした。ついに去年の10月末に日本に入国できて、隔離解除の次の日に参議院会館で行われた『食品等の出荷制限における放射性物質100Bq/kg緩和案の撤回を求める署名』の提出に参加することができました。その際、国の食品安全システムの中だけでは見えないところを、市民の立場から詳しく考えて政策を提案するのが市民科学者の役割だと思

いました。例えば、メルカリ等の日本の市民が常に使っているサイトを通して、国の基準値を超える山菜が流通していても、既存の国のシステムでは規制されていません。市民放射能測定活動の経験を通じて、一般市民の日常生活から市民が必要なことを実感して様々な利害関係者と一緒に国のシステムを作っていく方向が必要だと思っています。



C-ラボにて大沼淳一さんにインタビュー

2022年1月21日、ついに名古屋のC-ラボを訪問する機会がめぐってきました。その前の晩、大沼夫妻のご自宅に泊まらせていただき、大沼さんたちと様々な楽しいお話ができました。貴重なお話の中、大沼章子さんが、専門家任せにしないで市民科学者になろうと言ってきましたが、測る事を含めて自ら情報を集めて自ら考える、自立する市民になる事が大切」と仰っていたのが印象深かったです。そして、大沼夫妻が東日本大震災の前から、公害等の他の環境問題に関しても

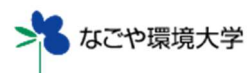
研究や調査を行ってきたこと、フランス等の海外の市民団体と協力していることなどがわかってきて、日本の市民放射能測定活動が他の地域と環境問題にも繋がりがあっていることを感じました。

C-ラボを訪ねた時、大沼淳一さんにインタビューの形式でC-ラボについてお聞きする機会がありました。その際、「なぜ原発事故が起きた福島と離れている名古屋に、事故から10年経った今でも市民放射能測定所が必要ですか?」と尋ねると、大沼さんが「汚染はまだ終わってないです。もう一つは、名古屋は浜岡原発から130kmだし、福井原発は北に100kmです。一旦事故が起きた時は、名古屋も相当酷く汚染する可能性があります」と仰ったことを聞いて、原発がある限りは原発事故の可能性はあるはずだと思いました。さらに、C-ラボは単に放射能測定のみならず、事故の時避難して来た人達の支援にも力を入れているのにも感

銘を受けました。その後、当番の田中さんと平松さんにもお話しができて、測定活動を始めたきっかけや経験についてもお聞きしました。様々な貴重なお話の中、田中さんと平松さんは、「震災の前は放射能と測定についてあまり知識がなかったが、震災の後、一生懸命汚染状況と放射能に関して一緒に学んで、今は測定に詳しくなりました」というお話が印象深かったです。

C-ラボに実際に訪れる機会があって、ますますこの活動を心から応援したいと感じました。東京に帰ってきて、サイエンスカフェにもZOOMで参加させていただき、大沼淳一さんのトリチウム汚染に関する講演もお聞きできて、大変勉強になりました。これからは、またC-ラボの皆さんにお会いできることを楽しみにしています。

## C-ラボが なごや環境大学講座に参加



**なごや環境大学** (なごやかんきょうだいがく) は、市民、NPO、企業、大学、行政の協働により、「環境首都なごや」そして「持続可能な地球社会」を支える人づくり、人の輪づくりを目指して2005年(平成17年)3月に開講。名古屋の街中を「キャンパス」として展開する、新しい環境学習の場づくりを目指した試み。受講者数は2009年度までに約2万人。講座を紹介している「なごや環境大学ガイドブック」は毎年3月と9月に発行されており、配布場所は、なごや環境大学事務局・名古屋市の各図書館・区役所・生涯学習センターで無料配布されています。

## 「放射線・放射能のことを知り、測ってみる」

現在C-ラボには大小合わせて5種類の放射能測定器があります。スタッフがすべて使いこなしているとはいえませんが、それぞれの特長を生かして活用出来るのです。

この機器たちを紹介しながら放射能の特性を理解してもらおうと、環境大学を利用して、4回の講座を開くことにしました。講師は知識が豊富な大沼&大沼さんです。

無味・無臭・無色の放射線を見ることができるとは

知らなかったもので、一般の人にも見て頂きたいと第一回のテーマは「霧箱を使った放射線の可視化」の実験付き講座です。

申し込みがあるかどうか不安でしたが、6~8名の申し込みがありホッとしました。驚いたことに皆さん環境大学の常連さんのようで、スタンプカードを何枚も持っていました。

さて第一回の講座では、霧箱をドライアイスで冷や

しアルコールで過飽和状態にすると、なんと $\alpha$ 線 $\beta$ 線 $\gamma$ 線や宇宙線がフワフワと現れたり消えたり。これらは空气中に常に存在しているものです。岐阜大学の先生からいただいた手作り霧箱でしたが実験は大成功で「見えた！見えた！」と盛り上がりました。



手作りの霧箱



霧箱を覗き込んで放射線を確認

二回目の講座では、実際に私たちが普段測定している「NaI 核種分析装置で山菜の測定」のデモです。試料を詰め重量を測って PC に情報を入力しました。測定原理やその結果の読み取りなど難しいことも聴いてもらえて(スタッフにも難しい)良かったです。

まだ6月7月と二回の講座がありますが、参加者のレベルが高いので嬉しいような恥ずかしいような気持ちです。是非ボランティアスタッフになってもらいた

いのですが、私たちスタッフも再学習しなくちゃと思いました。



第二回講座 C-ラボでの座学

【第三回講座】 6月19日(日曜日)  
「測定器ホットスポットファインダー (HSF) 実習」  
GPS 搭載の野外を歩行するだけで汚染マップが制作できる優れものです(雨の場合は野外実習は次回に)

【第四回講座】 7月17日(日曜日)  
「17 都県土壤放射能測定マップを読み解く」  
28 の市民測定所が参加して土壤放射能測定した結果と解説です

どちらも 13 時 30 分～15 時 30 分の予定です。直前申込みも受け付けます。  
(山岡美子)

## スタッフエッセイ

### C-ラボの 11 年を振り返る

松本真一

放射能について考え始めたのは福島原発事故。それまではチェルノブイリの原発事故という「単語」、何となく「体に悪そう」というイメージを持つのみであった。

事故後、原発が大爆発しないか？ 気になって毎日報道をチェックしていた。テレビや新聞から流れてくる情報は「直ちに影響ない」や肩書のある専門家の「安

全論」。一方、ネットではそうではないという批判的情報。

なんか変だな？  
ノンポリだった自分が目覚めた感覚だった。

どこで目にしたかはもう記憶がないが、名古屋市に「C-ラボ」という市民測定所がある事を知る。

無料で「放射能測定養成講座」が開かれているらしい。知識のない自分は参加してみることにした。C-ラボの事務所は当初西区の生活クラブ内にあった。地図を頼りに行ってみたが、場所が実にわかりにくい。

「え？もしかしてここ？」

看板も何もなく、車が停まる奥にあるただの出入口。入ってみると、測定器のある部屋は、広いテーブル、輪転機、伝票のような書類、炊事場、社員の方は食事もするらしく、作業場という雰囲気であった。測定器を見ると、丈夫そうな台車に乗る鉛の筒、その上に載るノートPC。「放射能測定所」という単語からのイメージとはだいぶ違っていた。よく見ると「市民」とついているので、本当に普通の人々の活動なのだと感じた。

大沼章子氏の養成講座が放射能とは？から始まる。内容がとても濃いので詳細は講座受講をお勧めするが、福島原発から大量の核種が放出された。放射線はDNAを傷つけ、ガンを発症する。放射性物質は時間と共に減少するが、半減期が長い核種は半永久的に影響を及ぼす。外部被ばくと内部被ばくで影響度は分けて考える必要がある。なるほど、そんな危険な物質を扱う発電所が日本には54基もあったのか。しかも核のゴミが溜まり続け、最終処理場が決まっていない。何も知らなかった。

C-ラボに関わるうちに、原発問題と別に多くの市民活動を目にする。週末などに公共の施設を借りて社会問題に取り組んだり、デモ行進をする市民が多かった。沖縄の基地問題、安保法制、TPP、ゲノム編集など、政府のやっていることは問題ばかりと気づく。311以前は全く知らなかったこのような活動に、足を運ぶ機会が増えた。



そのうちネットメディアという存在に目が留まる。大手メディアの報じない問題に着目し、市民活動やデモをネットで配信する。このようなメディアが無ければ、市民活動が世の中に知れ渡ることもない。こちらもボランティアだが、ハードルが低かった為、いつの間にか中継市民と

して活動を始める。

中継なんかしたこともないし機材も無い。ビデオカメラや一脚、マイク、バッテリー、通信設備を徐々に揃えていき、市民活動を中継していった。時には政治家や知事にインタビューもしたが、最初はかなり緊張した。年1回のC-ラボ活動報告会もここ数年中継を続けている。しかし中継はほぼ一人で行うため悩みが多く、音声をうまく拾う方法、カメラワークの良しあし、今でも試行錯誤はずっと続く。時々TV局の報道部隊に遭遇する。彼らは大抵チームで動いていて、インタビュー、カメラマン、音声、三人くらいだろうか。機材もプロ仕様なのでこちらとは大人と子供位の差がある。なんとなく気恥ずかしい気持ちになる。しかしこちらには決定的なメリットがある。

大手メディアは取材してもボツになる事があるが、こちらは「全て中継できる」という事だ。C-ラボの情宣兼ねて、C-ラボと中継市民の活動を続けていた。

そのうち原発避難者にも会う事となる。自分と同じ中継市民が裁判関連の中継を続けてくれていたが、自分はC-ラボとしてのサポートとて少しだけ関わらせていただいた。いくつかの判決をみて、裁判官も政治家も市民を全く見ていないと思わざるを得ない。もう終わった事かのような世の中の反応も違和感がぬぐえない。

原発は定期点検で停止する。寿命は30年だったらしい。再稼働反対運動が全国で始まり、一時は全ての原発が停止する。

しかし政治により大飯原発から次々に再稼働が始まる。廃炉期間を益々延長しようとしている。おかしい、東北があれだけの被害を受けてまだ再稼働するのか？

311後、様々なデモや市民活動を見たが、世の中は悪くなる一方、大手マスコミ報道は嘘ばかり。最近ではまた基本的人権の尊重を削除した憲法改正が浮上しているらしい。日本を動かしているのは政治家と見ていたがそうではないと思い始めた。C-ラボの活動から始まり、なぜこのような世の中になっているのか、主に海外の情報を集めている。

## 安定ヨウ素剤はいつ、どこで、誰から配布されるのか？

原子力規制庁「安定ヨウ素剤の配布・服用に当たって（2021年7月21日改正）」には、規制委員会が服用の必要性を判断し、原子力災害対策本部又は地方公共団体からの指示があった場合にのみ、服用することになっています。なお、服用量は年齢に応じて異なりますので、注意が必要です。原子力発電所から半径5kmの範囲（PAZ）は事前配布、半径5～30kmの範囲（UPZ）は自治体保管です（急場に間に合うのか？）。

福島原発事故で高濃度のヨウ素-131やテルル-132（壊変してヨウ素-132）のプルームはUPZなんか軽く突破して広がりました。原発から30km以上離れた地域住民、原発立地県でない自治体住民などはどうすればいいのでしょうか。地元自治体に要求していくか（丹波篠山市に実例あり）、自分でネットや薬局で購入する、もしくは、代用品を考えておく必要があります（2頁参照）。

安定ヨウ素剤



画像：日医工、HPより

製品名：ヨウ化カリウム丸50mg  
有効成分の含有：1丸50mg含有

表 安定ヨウ素剤の適切な服用量（1回分）

対象者	ヨウ素量 (mg)	ヨウ化カリウム量 (mg)	ヨウ化カリウム製剤
生後1か月未満	12.5	16.3	ゼリー剤（16.3mg）1包
生後1か月以上 3歳未満	25	32.5	ゼリー剤（16.3mg）2包 又は ゼリー剤（32.5mg）1包
3歳以上13歳未満	38	50	丸剤（50mg）1丸
13歳以上	76	100	丸剤（50mg）2丸

### C-ラボカフェのご案内

### ～最近とりあげられたテーマ～

- 🍷 Sho~koさんカフェ（第1水曜日 13:30～） 大沼章子；ウクライナ問題 環境大学の講座内容の検討
- 🍷 雑学カフェ <随時依頼・募集>（不定の水曜日 13:30～）  
宮澤和久；クマムシの話 No.2  
小野久美；3.11から11年目に突入、南相馬市・福島県の話を書く
- 🍷 サイエンスカフェ（第4水曜日 13:30～） 大沼淳一；低線量被ばくによるリスク



### <C-ラボへの寄付とボランティアのお願い>

C-ラボは皆さまのご寄付とボランティアで運営されています。よろしくお願いいたします。

銀行からは：（ゆうちょ銀行）店名二一八（預金種目）普通（口座番号）5484719

（口座名）未来につなげる・東海ネット市民放射能測定センター

ゆうちょ銀行からは：同封の振込用紙をご利用ください



### <編集後記：MDSの声明文めぐって>

2月24日、ロシア軍のウクライナ侵攻という大事件が起こりました。チェルノブイリ、ザポリージャと原発の名も出て、C-ラボでも緊急行動への参加が話題に上りました。一方みんなのデータサイト（MDS）では、運営チームにより「声明」が作成され、英文を付してわずか1週間でサイトに掲載されました。ところがC-ラボで「事後報告」されると、今回の事態に対する見解がメンバーにより異なり、C-ラボ離脱も辞さない強い異論が複数出されました。その後、情報交換がなされるとともに、MDSでも再検討があり、「声明」は一旦取下げ・各測定所が各々の声明を出す/出さないを決め・サイトではその紹介に留める、となりました。C-ラボでは結局声明は出さないことになり、情報交換は今後も継続としました。教訓：「緊急事態」だからと事実確認が不十分なまま一方的な情報を元に性急な判断・行動をするのは危うい、民主的な議論・手続きと意見の多様性の尊重が大切。（八木佳素実）

### 未来につなげる・東海ネット 市民放射能測定センター

住 所： 〒467-0058 名古屋市瑞穂区関取町146 電話・FAX： 052-836-3116

開 所 日： 毎週水・木・金 11:00～16:00（祝祭日休み）

E-mail： [tnet\\_sokutei@xg7.so-net.ne.jp](mailto:tnet_sokutei@xg7.so-net.ne.jp) Website： <https://tokainet.wordpress.com/hsc/>